

# イデックスオイルレポート ~For a week~

2021/7/9作成 (株)新出光

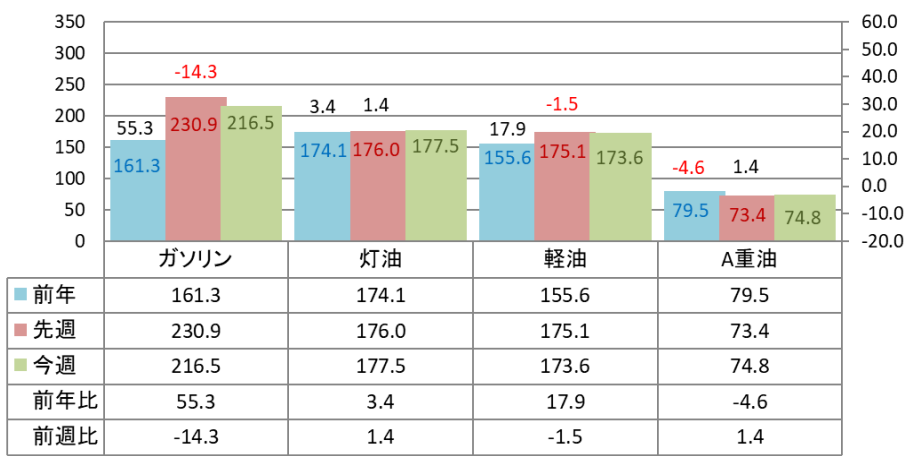
## 【概況】<OPECの会合依然まとまらず>

- 2日、OPECプラスは1日、事前協議がまとまらなかったとして、閣僚級会合を2日に延期しました。OPECの盟主サウジアラビアとロシアが8月から年末まで毎月日量40万バレル増産し、現行の協調減産の期限を2022年4月末から同年末に延長することで暫定的に合意していたものの、アラブ首長国連邦(UAE)がこの二つの案に対して異議を唱えたということでした。
- 5日、米独立記念日の振り替えの為、WTI原油相場は休場です。
- 6日、「OPECプラス」は、5日に予定していた閣僚級会合は増産をめぐる意見の相違で中止となり、慎重な増産を進めるサウジアラビアに対して、産油能力を持て余すアラブ首長国連邦(UAE)が自国の生産割り当てを増やすよう要求しました。両国の対立により8月以降の増産方針が不透明となり、供給逼迫への警戒感から原油相場は一時WTI原油で77ドル近辺まで上昇しましたが、利益を確定する動きが活発化し、74ドル台に押し下げられました。
- 7日、OPECプラスの協議が週明けに決裂し、OPECプラスの増産方針に関する見通しが不透明となる中、先行きへの思惑から売り買いが交錯しました。ここ数日の上値の重さを嫌気した利益確定の売りも出やすかったようです。
- 8日、米エネルギー情報局(EIA)が午前中に発表した1週間の米原油在庫は前週比690万バレル減と、市場予想の400万バレル減を上回る在庫の取り崩しとなりました。在庫減少はこれで7週連続です。ガソリン在庫も610万バレル減と、予想の220万バレル減の3倍近い取り崩しでした。これをきっかけに需給引き締め期待が強まり、原油の買いが活発化し、相場は一時WTI原油で73.14ドルまで上昇しました。OPECプラスの増産協議の行方をめぐる懸念が重しとなり、相場は一旦WTI原油で70.76ドルを付けたあとも安値圏で推移していました。サウジアラビアとアラブ首長国連邦(UAE)が8月以降の増産案をめぐる調整が付かず、閣僚級会合は中止となっています。

7月9日 | 17:00現在 | WTI原油 | 73.49ドル | 為替 1ドル | 110.03円

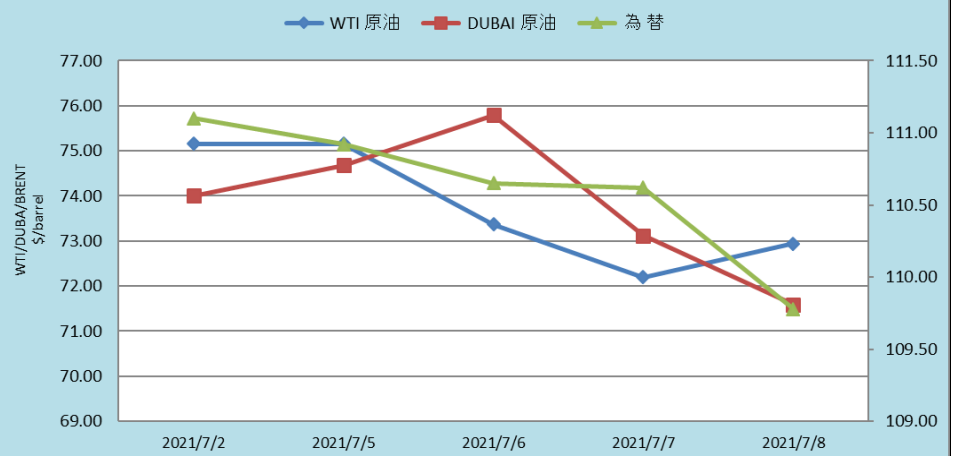
国内石油製品在庫 7月3日時点

単位万KL



ドル/bbl WTI・DUBAI / 為替 相関グラフ

単位 円



## 次回元売変動予測

7/15~ 元売変動予測

ガソリン	→	-0.5 ~ ±0
灯油	→	-0.5 ~ ±0
軽油	→	-0.5 ~ ±0
A重油	→	-0.5 ~ ±0
LSA	→	-0.5 ~ ±0

## 【製品卸価格】<相場一転先安へ>

《今週》今週の元売り仕切り改定は「+0.5円」の値上げ改定でした。改定は小幅ですが、6週連続の値上げ改定となりました。7月に入りOPECの会合を控え上がっていた原油相場が一段切り下がったことで、先高観測が後退し、先安の可能性が出てきたことから、週決め玉の販売が中心であった市況に月間リンクの玉も徐々に混在してきました。

《7月10日以降》次回の元売り改定は、現状の原油コストで「-0.5 ~ ±0円」の小幅変動予測です。OPECの会合がまとまらないことから先行きの不透明感を意識した、原油先物の利益確定の売りが活発になっており、ここ数日の原油相場をみて月間リンクの玉の販売を始めるディーラーが多くなっています。現状の原油コストでは来週は小幅の値下げの可能性もあることから、いまが相場の高値と考え週末より一層販売を強めているようです。ただ、なかには元売り向けの販売に多くの枠を消化したとみられ、価格の提示を見合せているディーラーも見受けられます。今後は先安観測や緊急事態宣言、蔓延防止措置、大雨等による需要の低迷を懸念し、早めの枠消化を意識した市況の下げが各地で見られそうです。

※現段階の原油コストによる予想です。

## 【次世代エネルギー】<ダイキン工業EV車用冷媒の開発>

ダイキン工業は電気自動車のエアコンに使う省エネ性能の高い冷媒を開発しました。電気自動車の冬季の暖房エネルギー等の割合は使用状況により50%以上になる場合もあり、走行に使用できるエネルギーが減り、実走行距離が大きく低下してしまいます。そのため効率的な空調システムが以前より必要とされていました。この冷媒により、電気自動車の航続距離を最大で5割伸ばすことが可能になるようです。ダイキン工業は空調や冷媒の大手で、これまで自動車向けはほとんど手掛けてこなかったですが、今回開発した製品は現在多く使用されている米国製の製品とのシェア争いになりそうです。同社はこの冷媒を2025年をめどに実用化の予定としており、空調の技術革新は、運輸部門の温暖化ガス排出削減につながるとされています。

[出典] ①<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUF062Z50W1A700C2000000/>  
 ②<https://www.denso.com/jp/ja/-/media/global/business/innovation/review/16/16-doc-12-ja.pdf>